

主要底魚類の資源評価に関する研究

(資源評価調査)

道根 淳・沖野 晃

1. 研究目的

本県の主要な漁獲対象種のうち、底魚類等 11 魚種の資源状況を漁獲統計調査、市場調査により把握し、科学的評価を行うとともに、資源の適切な保全と合理的かつ持続的利用を図るための提言を行う。また、本調査から得られた主要底魚類の漁獲動向については、平成 26 年の漁況として別章に報告した。

2. 研究方法

主要底魚類等 11 魚種（ズワイガニ、ベニズワイガニ、ニギス、ヒラメ、マダイ、ハタハタ、タチウオ、カワハギ類、トラフグ、キダイ、ヤリイカ）については漁獲統計資料の収集、市場における漁獲物の体長測定、買取り後の生物精密測定を実施した。さらに、これらの調査結果をもとに（独）水産総合研究センターおよび関係各府県の水産研究機関と協力して、魚種別の資源評価を行い、ABC（生物学的許容漁獲量）の推定を行った。

また、日本海西部海域におけるズワイガニ等底魚類の分布状況や資源量を把握するため（独）水産総合研究センター日本海区水産研究所が実施しているトロール調査において、浜田沖 200m 以浅については 10 調査点を設け、試験船島根丸によるトロール調査を実施した。

3. 研究結果

(1) 漁場別漁獲状況調査

小型底びき網漁業については、46 漁労体の漁獲成績報告書の収集、整理を行い、FRESCO システムによりデータの登録を行った。また、ずわいがに漁業ならびにべにずわいがに漁業については、漁獲成績報告書の整理を行い、データベース化を行った。

(2) 生物情報収集調査

主要底魚類等 11 魚種については、漁獲統計

資料の収集、整理を行った。また、マダイ、ヒラメは市場における漁獲物の体長測定を実施し、放流魚の混獲状況の把握を行った。さらに、（独）水産総合研究センター日本海区水産研究所、西海区水産研究所が中心となって開催される各ブロック資源評価会議に参加し、資源量、資源水準等の推定ならびに管理方策の提言を行った。

(3) トロール調査

平成 26 年 5 月 13 日～15 日にかけて、浜田沖の 10 調査点でトロール調査および海洋観測を実施した。ズワイガニ測定データ、主要底魚類の体長測定データは取りまとめた後、（独）水産総合研究センター日本海区水産研究所に提供し、浜田沖におけるズワイガニおよび主要底魚類の資源量推定の基礎資料として活用された。

4. 研究成果

漁海況速報トビウオ通信(平成 26 年第 5 号、平成 27 年第 1 号)において、底びき網漁業の動向および主要底魚類の資源動向に関して情報提供を行った。また、本研究で得られた結果より推定された ABC をもとに、ズワイガニの TAC（漁獲可能量）が設定された。

マダイ、ヒラメについては、市場調査で得られた体長組成および放流魚の混獲率が放流効果調査資料として利用された。